

石油技術協会平成23年度秋季講演会 石油鉱業連盟創立50周年記念講演会

日時 平成23年11月10日(木) 10:00~17:50

場所 経団連ホール (経団連会館2階) 東京都千代田区大手町1-3-2

交通 東京メトロ・都営地下鉄三田線「大手町駅」C2b出口より 徒歩3分

参加費 無料 (事前登録の必要無、会員以外の来聴を歓迎いたします)

午前の部

石油鉱業連盟創立50周年記念講演会

主催：石油鉱業連盟 共催：石油技術協会

- 10:00 開会
10:00~10:15 挨拶 石油鉱業連盟 会長 棚橋 祐治
10:15~10:30 祝辞 石油技術協会 会長 和佐田 演慎
10:30~11:30 講演 **「グローバル化時代の人材育成」**
国立大学法人東京大学 総長 濱田 純一 氏
11:30~13:00 昼食休憩 (軽食ビュッフェ、4階401号室)

午後の部

石油技術協会平成23年度秋季講演会

主催：石油技術協会 共催：石油鉱業連盟
協賛：(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、天然ガス鉱業会、(社)石油学会、
(社)物理探査学会、(社)日本エネルギー学会、(社)資源・素材学会

- 13:00 開会
13:00~13:10 挨拶 石油技術協会 会長 和佐田 演慎
- 平成23年度石油技術協会業績賞受賞講演
- 13:10~13:55 **「磐城沖プラットフォーム撤去の概要」**
磐城沖石油開発株式会社 取締役 施設管理部 部長 戸谷 裕造 氏
新日鉄エンジニアリング株式会社 海洋事業部海外プロジェクト部 部長 藤崎 恭功 氏
- 秋季講演会テーマ「本邦企業の資源開発動向ー自主開発40%を目指して」
- 13:55~14:40 **1 「ノルウェー大陸棚における探鉱・開発・生産活動についてーこの20年を振り返って」**
出光オイルアンドガス開発株式会社
開発部ノルウェー・英国総括マネージャー 木田 昌宏 氏
- 14:40~15:25 **2 「イラクプロジェクトから学んだことーその成功と困難さー」**
石油資源開発株式会社 常務取締役執行役員
中東・アフリカ・欧州事業本部 副本部長 中山 一夫 氏
- 15:25~15:35 休憩
- 15:35~16:20 **3 「資源開発と不確実性下における意思決定」**
国立大学法人 東京大学大学院 工学系研究科
エネルギー・資源フロンティアセンター センター長・教授 佐藤 光三 氏
- 16:20~17:05 **4 「カナダのシェールガス事業について」**
三菱商事株式会社 エネルギー事業グループ 天然ガス事業 第二本部
シェールガス事業ユニット ユニットマネージャー 羽場 広樹 氏
- 17:05~17:50 **5 「イクシス・ガス田の開発」**
国際石油開発帝石株式会社 イクシス事業本部
本部長補佐 岡田 二郎 氏
- 17:50 閉会

お問合せ

東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館17階
石油鉱業連盟 URL: <http://www.sekkoren.jp>
石油技術協会 URL: <http://www.japt.org>
TEL 03-3214-1701 FAX 03-3214-1703

石油技術協会平成23年度秋季講演会 講演要旨

業績賞受賞講演

磐城沖プラットフォーム撤去の概要

磐城沖石油開発株式会社 戸谷 裕造・新日鉄エンジニアリング株式会社 藤崎 恭功

磐城沖プラットフォームは福島県双葉郡楢葉町沖合約 40km、水深 154m の海中に据え付けられ、1984 年より天然ガスの生産を行ってきたが 2007 年に操業を終了し、2010 年にその撤去作業を完了した。

これまでに撤去された海洋掘削施設（プラットフォーム）は少なくないがその大部分は水深 100m 以浅の浅海域のものであった。本プラットフォーム撤去工事は水深、ジャケット重量とも世界的にも最大規模のものであり、撤去に当たっては多くの困難が予想されたが、工期内に無事故無災害で完了することができた。

講演では、本プラットフォーム撤去に至るまでの経緯と撤去工事の概要について紹介する。

1 ノルウェー大陸棚における探鉱・開発・生産活動について —この20年を振り返って

出光オイルアンドガス開発株式会社 木田 昌宏

ノルウェーの 2010 年における石油及びガスの生産量はそれぞれ 210 万バレル／日及び 290 百万 m³／日であり、世界第 14 位及び第 5 位の生産国となっている。また国内消費が少ないため、それぞれ第 7 位及び第 2 位の輸出国となっている。弊社は 1988 年にノルウェーに進出し、ノルウェー国内で油埋蔵量第 6 位の Snorre 油田及び Fram 油田の開発・生産に参画している。また探鉱活動をこれら油田が位置する北部北海を中心に進めてきたが、最近ではノルウェー海や北極圏にあるバレンツ海にも広げている。本講演では、ノルウェーの石油開発の状況とこれまでの弊社の事業活動について概要を紹介する。

2 イラクプロジェクトから学んだこと —その成功と困難さ—

石油資源開発株式会社 中山 一夫

イラクプロジェクトでは予想外の種々の困難さに遭遇する。鎖国状態から一気に世界の石油開発の注目を集めるようになったイラク政府の未成熟さがその原因である。現在弊社はマレーシアの国営石油会社 Petronas と共にイラク国南部ガラフ油田の開発を推進中であるが、筆者は約 1 年半彼等と共にこのプロジェクトに従事し、Petronas の仕事ぶりを見て来た。本講演ではイラクでの活動を紹介すると共に、そのような困難さに立ち向かう Petronas マネジメントの働きぶりを中心に、我々日系企業がプロジェクトマネジメント上で見習うべきいくつかの点を紹介する。

3 資源開発と不確実性下における意思決定

国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 佐藤 光三

遠隔かつ広大な油田を対象とする資源開発においては、根源的不確実性に加え情報源の不足、測定の見誤差、解析の未成熟などのため、貯留層の評価 に関し如何なる探査や観測を行っても不確実性を内包した情報しか得られない。操業者は開発に際し不確実性下での意思決定を強いられるが、その過程においてはヒューリスティックな判断も多分に見られる。本講演では、情報の優劣判断に定量性を導入する手段として情報の価値の概念を紹介し、意思決定に際しての客観性の付与を考える。

4 カナダのシェールガス事業について

三菱商事株式会社 羽場 広樹

米国テキサス州で勃興したシェールガス革命は瞬く間に北米を席卷したが、数多くの機会の中から何故カナダを目指す事となったか。三菱商事の使命はエネルギーの安定確保のみならず、新たな提案及び先駆者としての挑戦であると定義するならば、本件はその発露の典型と言える。シェールガス開発は未だ緒に就いたばかりだが、現況及び並行して検討進める液化構想につき update 行う。

5 イクシス・ガス田の開発

国際石油開発帝石株式会社 岡田 二郎

当社はオーストラリアにおいて 2000 年にイクシス・ガス田を発見し、現在最終投資決定に向けてオペレータとして開発準備作業を行っている。イクシスの開発方式は海底仕上げ坑井を 2 つの浮遊式生産システムに接続後、800km を超える海底ガスパイプラインにより陸上基地に送り、液化して最終的に日本等に LNG として販売するスキームを計画しており、壮大なガスサプライチェーンの構築を目指すものである。本講演では、プロジェクトの概要について紹介する。